

育苗床におけるサツマイモ基腐病の見分け方

サツマイモの苗床で発症したサツマイモ基腐病の罹病株を早期発見・早期除去するためには的確に見分けることが重要

背景・目的

- ・サツマイモ基腐病は2018年に発見された国内初の病害で、サツマイモの育苗床でも発生を確認
- ・本病の防除対策として、育苗床で発症した罹病株を的確に病徴で見分けるための診断法が必要

成果の内容

☑株全体の様子



生育不良

葉が舟形に萎凋



葉の変色

葉の変色は紫, 赤, 黄色など

☑株の地際部の様子



地際の株もとが黒変する(黄矢印)



塊根から伸びた茎の基部は黒変し枯死するため抜けやすい(黄矢印)

☑罹病種芋の確認(抜き取り後)

塊根の外観



なり首側

- ・品種を問わず塊根の腐敗はなり首側から
- ・塊根の腐敗していない部位から再萌芽するのが特徴(赤枠内)

塊根の断面

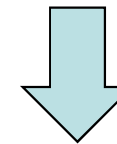


なり首側

- ・腐敗部位はなり首側から茶褐色に変色
- ・触感は固さを残しながら「しっとり」とする
- ・臭いは黒斑病の塊根が発するイポメアマロン臭がする

導入メリット

サツマイモ基腐病
防除対策マニュアル
に活用



早期発見・早期防除
につながる

期待される効果

- ・苗床での感染拡大を抑制
- ・サツマイモ基腐病菌の本圃持ち込みリスクを低減

普及対象・範囲

県内全域の生産者および指導者